

皆様、おはようございます。

先週は、「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」との御言葉、「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」との御言葉を頂きました。

私たちはぶどうの枝であり、木はいろいろあれど、私たちのつながるべき本当の親木を探してさまよっておりました。我が家にたどり着いた子供が羽を伸ばして憩うように、私たちにとっての休み場は、私たちを愛のうちに形づくり、私たちの帰りを待っていて下さるお方のもとであることを信じます。

イエス様は弟子たちのもとを離れずに祈り、教え、世話をしてくださいました。しかしイエス様はいつまでも弟子たちと共にいることは出来ませんでした。イエス様には向かうべきところがありました。

イエス様はご自身が造られた世界に来られ、お生まれになったのに、世の中の人はいエス様を歓迎しませんでした。

祭司長、律法学者たちはイエス様へのねたみの気持ちに駆られてイエス様を殺してしまいました。それはイエス様が語られたたとえの通りでした。

マタイ 21:33 もう一つの譬を聞きなさい。ある所に、ひとりの家の主人がいたが、ぶどう園を造り、かきをめぐらし、その中に酒ぶねの穴を掘り、やぐらを立て、それを農夫

たちに貸して、旅に出かけた。

21:34 収穫の季節がきたので、その分け前を受け取ろうとして、僕たちを農夫のところへ送った。

21:35 すると、農夫たちは、その僕たちをつかまえて、ひとりを袋だたきにし、ひとりを殺し、もうひとりを石で打ち殺した。

21:36 また別に、前よりも多くの僕たちを送ったが、彼らをも同じようにあしらった。

21:37 しかし、最後に、わたしの子は敬ってくれるだろうと思って、主人はその子を彼らの所につかわした。

21:38 すると農夫たちは、その子を見て互に言った、『あれはあと取りだ。さあ、これを殺して、その財産を手に入れよう』。

21:39 そして彼をつかまえて、ぶどう園の外に引き出して殺した。

送られた数々の預言者を迫害し、受け入れなかった民のため、主人はわが子ならば敬ってくれるだろうと、過去の失礼を赦し、誠意をもってチャンスを与えたのに、農夫たちは跡取りを殺して財産を手に入れようと考え、とんでもない過ちを犯してしまいました。主人は悪人どもを皆殺しにしたと、このたとえ話は締めくくられます。そしてイエス様は選民イスラエルの人たちにこう言われました。

21:43 それだから、あなたがたに言うが、神の国はあなたがたから取り上げられて、

御国にふさわしい実を結ぶような異邦人に与えられるであろう。

しかし、驚くべきことに、人々が大罪のゆえに主を殺した十字架というところは、人の救いのチャンスを失わせた決定的に愚かな行いは、神様によって人を救うところとされたのです。その悪行のゆえに人は滅ぼされなければならないのですが、その悪行を神様は用いて、その死を罪深い私たちのための主の身代わりの死とし、その死を私たちの救いと結びつけてしまわれたのです。

イエス様が十字架に向かわれたことは、弟子たちと共にいられなくなる道をたどることでした。弟子たちは防波堤を失った歩みをしなければならなくなります。

ヨハネ 15:19 もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。…15:23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。

15:24 もし、ほかのだれもがしなかったようなわざを、わたしが彼らの間でしなかったならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし事実、彼らはわたしとわたしの父とを見て、憎んだのである。

15:25 それは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と書いてある彼らの律法の言葉が成就するためである。

弟子たちは憎まれ、迫害されますが、イエス様なしにひとりで耐えなければならないものではありません。主は助け主を送って下さいます。

15:26 わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであらう。

15:27 あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのであるから、あかしをするのである。

しかし世の中はどんどん熾烈になり、「神に奉仕している」と考えながらイエス様の弟子たちを殺す時が来ることが語られました。父なる神も、遣わされたイエス様のことも何も知らない神の民たち。不毛と暗黒が支配する時がやってきます。そんな予知のもとでイエス様は去って行かれます。弟子たちは取り残され、どこに行ったのですかとも聞くことが出来ずに呆然と立ち尽くし、心が哀しみと孤独で一杯になる時が来ます。

しかし先にも言われましたように、イエス様は、父なる神様のみもとに帰ることによって、

私たちのことを神様の側近くで弁護してくださり、また私たちの側にも、弁護者であり  
聖霊をお遣わし下さるのです。

ヨハネ 16:2 人々はあなたがたを会堂から追い出すであろう。更にあなたがたを殺  
す者がみな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであろう。

16:3 彼らがそのようなことをするのは、父をもわたしをも知らないからである。

16:4 わたしがあなたがたにこれらのことを言ったのは、彼らの時がきた場合、わた  
しが彼らについて言ったことを、思い起させるためである。これらのことを初めから言  
わなかったのは、わたしがあなたがたと一緒にいたからである。

16:5 けれども今わたしは、わたしをつかわされたかたのところに行こうとしている。  
しかし、あなたがたのうち、だれも『どこへ行くのか』と尋ねる者はない。

16:6 かえって、わたしがこれらのことを言ったために、あなたがたの心は憂いで満  
たされている。

16:7 しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くこ  
とは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたの  
ところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。

イエス様はお身体を持っておられるとき、ご自分のおられるところの範囲以上の人に

語り掛けることが出来ませんでした。が、弁護者なる聖霊は、信じる者ひとりひとりの内に生きて下さり、24時間365日共にいて、弁護士、励まし、慰め、教え導いてくださいます。ですから、イエス様は、「わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。」と話されたのです。

ヨハネ 16:16 しばらくすれば、あなたがたはもうわたしを見なくなる。しかし、またしばらくすれば、わたしに会えるであろう」。

16:17 そこで、弟子たちのうちのある者は互に言い合った、「『しばらくすれば、わたしを見なくなる。またしばらくすれば、わたしに会えるであろう』と言われ、『わたしの父のところに行く』と言われたのは、いったい、どういうことなのであろう」。

16:18 彼らはまた言った、「『しばらくすれば』と言われるのは、どういうことか。わたしたちには、その言葉の意味がわからない」。

16:19 イエスは、彼らが尋ねたがっていることに気がついて、彼らに言われた、「しばらくすればわたしを見なくなる、またしばらくすればわたしに会えるであろうと、わたしが言ったことで、互に論じ合っているのか」。

16:20 よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜ぶであろう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであろう。

16:21 女が子を産む場合には、その時がきたというので、不安を感じる。しかし、子を産んでしまえば、もはやその苦しみをおぼえてはいない。ひとりの人がこの世に生れた、という喜びがあるためである。

16:22 このように、あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。

弟子たちには分からないことばかりでした。弟子たちは、イエス様がこれからなさろうとしている贖いのことも、受難のことも、よく分かってはいませんでした。イエス様が彼らのもとを離れていくという事も、彼らには信じがたく、誰もあえてそのことに触れませんでした。しばらくしたら会えなくなる。しかし、またしばらくすればまた会える。これが私たちの希望です。

父なる神様をもイエス様をも憎む人たちによって取り囲まれ、孤立無援になり、泣き悲しみ、その姿が面白おかしく取り上げられる時、その憂いは喜びに変わると主は語られました。ちょうど産みの苦しみのように、その出産のときには大変な憂いと不安があります。この先大丈夫だろうか、無事にことは進むのかと、命がけて悩むのですが、時が来れば出産の時を迎え、新しい命に触れ、今までのすべての憂いが、苦しみが、悲

しみが、すべて拭い去られる時がやって来るのです。まさに「案ずるより産むがやすし」  
です。

そのように、ひと時苦しみを経なければなりません。私たちは独りではなくて、内に  
弁護者なる、慰め主である聖霊を頂いております。主イエス様とお名前を呼べば、神  
様は答えて下さいます。そのようなお守りの中にいることを信じたいと思います。

16:25 わたしはこれらのことを比喻で話したが、もはや比喻では話さないで、あから  
さまに、父のことをあなたがたに話してきかせる時が来るであろう。

16:26 その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、  
あなたがたのために父に願ってあげようとは言いません。

16:27 父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたが  
たがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである。

先週の個所に、「わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしているこ  
とを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたこ  
とを皆、あなたがたに知らせたからである。」(15:15)という御言葉がありました。が、  
イエス様はあからさまに、隠すことなく父なる神様のことを私たちにお告げになられま



した。いつもイエス様は父なる神様と私たちの間をとりなしてくださいましたが、今イエス様が父なる神様のもとへ帰られる時には、神様がイエス様をお遣わしになられたように、私たちが愛して、聖霊によって直接私たちに語りかけられ、また私たちの願いを聖霊によって知られ、イエス様の御名によって直接父なる神様に願いを立てられるようになったことを主は語られました。

16:28 わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」

16:29 弟子たちは言った。「今は、はっきりとお話しになり、少しもたとえを用いられません。」

まもなくどこに行くか。かつてイエス様はこう語っておられました。

ヨハネ 14:4 わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」。

14:5 トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」。

14:6 イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。」

今主ははっきりとこう語られました。

16:28 わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」

弟子たちはイエス様をメシア、救い主と信じていました。数々の不思議な業によって、イエス様が父なる神様から遣わされてある方であるという事を知っていたはずでした。

しかし彼らはイエス様の口からはっきりとそのことを告げられ、喜びます。

16:30 あなたが何でもご存じて、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。」

16:31 イエスはお答えになった。「今ようやく、信じるようになったのか。」

16:32 だが、あなたがたが散らされて自分の家に帰ってしまい、わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。

はっきりと告げ知らされ、はっきりと信じたように思われる弟子たちでしたが、この後イエス様が連行され、十字架につけられる時には弟子たちは主を置いて散り散りに逃げ惑うのでした。「しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。」

という御言葉は、力強いです。主は自らの民からも、また自らを「父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く」と弟子たちにはっきりと伝え、弟子たちは

「あなたが何でもご存じて、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。これによって、あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。」と答えたにもかかわらず、主を捨てて散り散りになりましたが、イエス様は天涯孤独ではありませんでした。迫害され、弟子たちにも見捨てられ、命が奪われようとしていましたが、「しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。」と信じ続けておられました。だから私は、あなた方に見捨てられても大丈夫だ。そしてあなた方も、「しかし、わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。」と私が語ったことを思い起こしなさいと主は語って下さいました。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

あれもこれも、主がすべてお心を開いて語って下さったのは、主のそのお姿を思い起こして私たちが平安を得るためでした。熾烈な迫害の中で、側近中の側近が皆散り散りになったとしても、どこに自らの慰めを見出すことができるのかという事を、主は包み隠さず、あからさまにお語り下さいました。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

自らの保身のために逃げ惑ってしまった弟子たちにも、やがて本格的な迫害の手が及び、悩みと艱難、苦しみと悲しみに押しつぶされそうになる時が来ます。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

しかし平安を得てほしい。私(イエス様)が苦しみの中で、「父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」「わたしはひとりではない。父が、共にいてくださるからだ。」と語られたことを思い起こしましょう。

勇気を出しましょう。苦しまれたイエス様は、どのような道をたどられたのか、そのご栄光を思い起こして勇気を出しましょう。憎まれ、見捨てられ、居場所がなく、孤立無援であり、悲しみのどん底にあって誰も自分と共にいないと思われる時、イエス様のお姿を思い起こしましょう。

「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

イエス様は世に押しつぶされたものではありませんでした。

イエス様は十字架にかかれ、世の罪を取り除く神の小羊としてのお働きを全うされ、イザヤ53章の御言葉をはじめ、神様はイエス様にあって数々の預言を成就されました。イエス様は世に敗北したのではなくて、世に勝利されました。このことを思い返して、夕刊に勝利をおさめられた方のことを思い、勇気を出そうではありませんか。

ヘブル 12:1 こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

2 コリント 6:1 わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。

6:2 神はこう言われる、／「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、／救の日にあなたを助けた」。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。

6:3 この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまづきを与えないようにし、

6:4 かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、

6:5 おち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、

6:6 真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、

6:7 真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、

6:8 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、

6:9 人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、

6:10 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。愛し守って下さったイエス様が側におられず、世の迫害が極まる時、弟子たちは悲しみに満たされ、泣いて悲嘆にくれ、ついには主を捨てて散らされてしまいます。しかし産みの苦しみは一時であり、喜びあふれる命との出会いの時があり、苦しみがすっかり忘れ去られるという事、そして「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」とのお慰めをありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン